

平成30年度 学校自己、及び、学校関係者評価表

武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 主体的に学習・生活し、学力・体力の向上を目指す学校 (2) 自他の人権を尊重する精神を育てる学校 (3) 地域に根ざし、地域と共につくる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】西川 義則	第1回 6月 7日(木)	様式4
学校運営協議会(学校評価分)	第2回 11月 8日(木)	
	第3回 2月21日(木)	

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考に にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	学校関係者評価	
				7月 12月		最終評価				意見	評価点 (4点満点)
				達成値	目標値	達成度	評価				
確かな学力の向上	【中期】全生徒に対しての基礎学力の定着を図る。	定期考査前、昼休みや放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。	・補習授業・補充教室の回数(時間) ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	100	A	年間5回の定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた。また、学校運営協議会と連携し、全学年で夏季休業中に計画的に補習を行うことができた。さらに、塾講師による「数学特進講座」を計画的に活用し、3年生の数学の学習に成果を出した。	夏季休業中や定期考査前の補習教室の内容の充実を継続して行う。	コミュニティスクールとしての活動で、学習サポートを東京都立武蔵村山高等学校生徒にやってもらっているが、連携してよくできていると思う。	4	
	【中期】家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	70	B	家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版(保護者の役割の追記)を今年度も作成した。しかし、家庭学習の習慣化は十分とは言えない。	入学当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導を確実に行う。家庭に家庭学習の協力を保護者会や面談等で継続して求めていく。	家庭学習は大切。家庭学習習慣の確立にはやはり家庭の協力が必要である。保護者会や学年便りなどで、さらに保護者への啓発をしてもらいたい。	3	
	【中期】読書活動の活性化を図る。	図書室を活用し、学校司書と連携して本への興味・関心を高め、読書量を増やす。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	69	B	複数教科の授業で、調べ学習等に図書室の活用がなされた。また、昼休みに図書室開放や生徒による読み聞かせを定期的に行った。	朝読書における時間確保の徹底した取組を組織的に行う。	学校だけに任せるのではなく、家庭でも子供に読書をさせることが大切である。学校と家庭と連携し、今年度の取組を次年度も継続してほしい。	3	
	【中期】基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定に自主的に取り組み、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	74	B	英検・数検・漢検の資格を1つ以上もっている生徒の割合は、1年生3割、2年生4割、3年生6割であった。	次年度も各検定の日程を年度当初に生徒へ周知し、受験を奨励する。また、学校運営協議会からの協力を継続してお願いする。	受験率、合格率アップに対する具体的な方策を講じ、受験者や合格者を増やしてもらいたい。	3	
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、生徒主体によるいじめ防止の取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	75	B	いじめに関するアンケートを年3回行った。また、スクールカウンセラーが意欲的に授業観察や相談活動に取り組んだ。	SNSに関するトラブルの未然防止が喫緊の課題である。保護者の危機意識を高める組織的な取組を行う。	SNS、スマートフォンの使い方モラルについて、定期的に力を入れて指導してほしい。SNSを使った動画によるいじめ等は、先生方の指導より、より専門知識をもつ外部講師による教養が良いと思う。	3	
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	SCや関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	100	A	教育相談部会を毎週1回、定期的開催し、生徒支援の具体策の検討・実施を行うことができた。また、年度当初からスクールソーシャルワーカーも参加し迅速な関係機関との連携を行うことができた。さらに、教室環境のユニバーサルデザイン化を全教室で行った。現在も、環境整備後の状態を維持している。	次年度も、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの教育相談部会参加により、関連機関との迅速な連携を行う。また、教育相談部会は、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な取組を継続していく。	学校だけでなく、関係諸機関と連携し、さらなる教育相談活動の充実を図ってほしい。	3	
	【短期】地域活動・ボランティア活動を充実させる。	地域行事やボランティア活動へ自主的に参加させる。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	100	A	昨年度参加者の少なかった1学期の市地域清掃には、生徒会や部活動の協力を得て、参加者が倍増した。また、今年度のボランティア参加延べ人数は、600人を超えた。	来年度も担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、生徒の参加率を高めていく。	地域の理解や協力が不可欠だと思う。ボランティア活動に積極的に参加していることは、将来にも役立つものと思う。今後もボランティア活動を推進してほしい。	4	
健やかな体の育成	【中期】オリンピック・パラリンピック教育の推進	オリンピック・パラリンピックについて学び、スポーツに関心をもち、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解を推進する。	・オリパラに関する授業の実施回数 ・教師自己評価 ・生徒アンケート	80	100	A	東京都のオリ・パラ事業を活用し、外部から講師を招いた講座を2回行った。また、五中フェスティバルやボランティア活動を通じて、国際交流やおもてなしの心も育成できた。さらに、保健体育や社会科の授業を中心にオリ・パラに関する授業を展開した。	オリ・パラ担当主任を中心に、オリ・パラ年間指導計画にしたがって、各教科や道徳等で取り組んでいく。また、長期休業中のボランティア等に積極的に参加する生徒の育成を継続していく。	オリンピック・パラリンピックを良い機会に、なかなか経験できないことを学習していい。今後も、さらにスポーツに関心をもち、国際理解、障害者理解にも力を入れてほしい。	4	
	【短期】基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	残食ゼロウィークに積極的に参加し、給食の残菜率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。	・給食残菜率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	75	B	給食委員会が年2回の残食ゼロ週間に組織的に取り組んだ。また、給食委員会が給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を行った。	年2回の残食ゼロ週間に、給食委員会が給食残菜率を減らす取組を継続する。給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を次年度も行う。	「早寝、早起き、朝ごはん」と言われるように、家庭で朝食をしっかり食べさせることも大事な食育である。次年度も、家庭の協力を仰ぎ、食育を進めてもらいたい。	3	
開かれた学校	【中期】コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	100	A	今年度も、3年生の進路模擬面接は、生徒に緊張感をもたせることができ大変良かった。また、学校運営協議会が中心となって、今年度も新たな職場体験先を開拓することができた。	3年生の進路模擬面接や職場体験先の開拓に、学校運営協議会の協力を今後もお願いする。また、防犯パトロールや芝刈りの参加者を毎回増やす。	防犯パトロールや芝刈りに保護者も参加しやすいように、日程を早めに周知していきたい。新たな取組みとして始まった制服のリサイクルを、次年度も継続して行いたい。	4	
	【中期】保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	五中フェスティバル等の事業を充実させ、地域人材の活用を図る。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	100	A	五中フェスティバルは、学校運営協議会の御協力により、今回も充実した内容であった。	次年度も学校運営協議会と連携して行い、国際理解教育の推進も視野に入れ、地域や横田基地との連携を進めていく。また、クラス数減少により講座数の削減も必要になった。	五中フェスティバルで地域の講師の高齢の方との交流で、お互いに良い関係ができていく。次年度は生徒数が減るので、講座数を精選していきたい。オリンピック・パラリンピックを控えて、横田基地の家族との英会話の交流は大変良かった。今後も続けてほしい。	4	

平均値 3.5

【達成度】 = [達成値] / [目標値]

【評価】 A : 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B : 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C : 5割未満→目標の見直し